

世界子供白書 2004

**THE STATE OF THE
WORLD'S CHILDREN 2004**

謝辞

本白書は、以下の国・地域のユニセフ現地事務所を含む多くの人々および機関・組織の助力を得て作成されたものである（英語名のアルファベット順）：アフガニスタン、アルバニア、アンゴラ、アゼルバイジャン、バングラデシュ、バルバドス、ベラルーシ、ベニン、ブータン、ボリビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ボツワナ、ブラジル、ブルキナファソ、ブルンジ、カンボジア、カメルーン、カリブ海地域事務所、中央アジア諸国およびカザフスタン、チャド、チリ、中国、コロンビア、エクアドル、エジプト、エルサルバドル、赤道ギニア、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ガーナ、グアテマラ、ギニア、インド、ヨルダン、ケニア、コソボ、ラオス、マラウイ、モルディブ、モーリシャス、モンゴル、モロッコ、モザンビーク、ナミビア、ネパール、ニジェール、ナイジェリア、太平洋諸島地域、パキスタン、パプアニューギニア、ペルー、ルーマニア、ルワンダ、サントメプリンシペ、セネガル、セルビア・モンテネグロ、シエラレオネ、ソマリア、スリランカ、スーダン、シリア、東ティモール、旧ユーゴスラビア・マケドニア、チュニジア、トルコ、ウガンダ、タンザニア、イエメン。各ユニセフ地域事務所およびコペンハーゲンの物資センター（デンマーク）からも意見が寄せられた。

世界子供白書 2004

THE STATE OF THE WORLD'S CHILDREN 2004

女子・教育・開発

ユニセフ(国連児童基金)事務局長
キャロル・ベラミー

目次

まえがき コフィ・A・アナン国連事務総長

1

開発に弾みをつける

1ページ



2

教育を受けた女子：開発を前進させるかけがえのない力

17ページ



3

女子が取り残されれば国が立ち後れる

31ページ



パネル

1. ペースを速めるための戦略：「2005年までに25カ国」 ……3
2. 教育：権利を持つ者、義務を負う者 ……9
3. エジプト：夢がかなった ……19
4. ビハール（インド）の「カラテ・ガール」たち ……25
5. さよなら授業料 ……35
6. ファーストトラック・イニシアチブ：女子と男子が共有する展望 ……39
7. 希望に満ちあふれた教師 ……47
8. 教育目標の達成に近づくアフリカの国々 ……53
9. トルコ：学校演劇が国の心を動かす ……61
10. スーダン：コミュニティが変化をもたらした ……65
11. アフガニスタン：再来 ……73

ボックス

1. 国連女子教育イニシアチブ ……5
2. 就学していない子どもは1億2,100万人 ……7
3. FTI（ファーストトラック・イニシアチブ）の指標枠組み ……38
4. 教育のためのグローバル・キャンペーン最新情報 ……41
5. 女子に対する男子の純出席率 ……61
6. 予算と人権 ……77
7. 子どもにやさしい学校は… ……89

マップ

女子教育、ジェンダーの平等および女性のエンパワーメントとミレニアム開発目標の達成がどのように関連しているかを示す指標を図表にしたもの

1. 極度の貧困と食糧危機の根絶 ……14
2. 初等教育の完全普及 ……28
3. 子どもの死亡率の削減 ……42
4. 妊産婦の健康の増進 ……56
5. HIV／エイズ、マラリアその他の疾病との闘い ……68
6. 環境の持続可能性の確保 ……80

4

女子教育の複合的効果

45ページ



5

男子については？

59ページ



6

正しい行動

71ページ



図表	<ul style="list-style-type: none"> 1. ミレニアム開発目標の見通し6 2. 初等教育におけるジェンダー格差の推移 12 3. IMF／世界銀行の融資額対成長率22 4. 所得貧困水準別の人間開発と経済成長23 5. 二重の危険27 6. 初等教育純就学／出席率32 7. 小学校修了率の進展33 8. 中等教育への女子の参加36 9. ジェンダーと教育に関する子どもたちの意見39 10. 東アジア・太平洋地域諸国の政府の教育支出40 11. 親を失った子どもは学校に通う可能性が低い50
付録	<ul style="list-style-type: none"> A ほとんどの問題を解決する方法83 B 人権に基づくアプローチ：共通理解声明91
	注94
表	<ul style="list-style-type: none"> 1. 基本統計102 2. 栄養指標106 3. 保健指標110 4. HIV／エイズ指標114 5. 教育指標118 6. 人口統計指標122 7. 経済指標126 8. 女性指標130 9. 子どもの保護指標134 10. 前進の速度138
	INDEX142
	用語解説147

「……女子の教育以上に
効果的な開発手段は存
在しない」

コフィ・A・アナン

まえがき



家族のなかでは、ひとりの子どもに他のどの子よりも注意を向けなければならない時期が必ずある。その子どものニーズに応えるからといって、他の子どもへの愛情が薄くなってしまおうというわけではない。というよりも、その特定の時期にはひとりの子どものニーズのほうが差し迫っており、重要だということにすぎない。親ならばだれでもそうだとわかっており、どんな子どもも、直感的にそのことを認識している。

家族に当てはまることは国際社会にとっても同様である。世界中の子どもは、男女を問わず、自分たちが教育に対する権利を享受できるようにするために私たちが全力を尽くすことを期待する権利を持っている。しかし、ほとんどの国では学校の話になると、女子はもっとも不利な立場に置かれているのである。今年の『世界子供白書』が報告するように、学校に一度も行かない女子は数百万人にのぼっており、最後まで教育を受けることができない女子はさらに数百万人を数える。さらに、権利であるはずの質の高い教育をまったく受けることができない女子となると数え切れないほどである。こうした数百万人の女子たちは容易に社会の周縁へと落ち込んでいき、健康の面でも、スキルの面でも、人生の選択肢の面でも、未来への希望の面でも、本来可能であるはずの水準に達することができない。成長しておとなの女性になっても、十分な力が備わっていないためにコミュニティの政治的・社会的・経済的發展に全面的に参加することができない。彼女たちは——ひいてはその子どもたちは——、貧困、HIV／エイズ、性的搾取、暴力、虐待の被害を一層受けやすい状況に置かれる。

逆に、女子を教育するという事は家族全体を教育するという事である。そして家族に当てはまることはコミュニティにも、最終的には国全体にも当てはまる。研究に次ぐ研究の成果を通じて私たちが学んできたのは、女子の教育以上に効果的な開発手段は存在しないということである。経済生産性を高め、乳児・妊産婦死亡率を低下させ、栄養状態を向上させ、HIV／エイズ蔓延の予防に役立つという意味も含めて健康を促進するうえで、他のどんな政策も女子教育ほどの効果を期待することはできない。他のどんな政策も、次世代の教育機会を向上させるうえで女子教育ほど強力にはなりえない。

21世紀の世界をよりよいものにするための青写真として世界のすべての国々が合意した「ミレニアム開発目標」のうち2つが、女子と男子が同様に教育されるようにすることをめざしたものである。これはそれぞれ独立した目標であるというだけではない。2つの目標をどこまで達成できるかは、他のすべての目標を達成できるようにするために決定的な意味を持つことなのである。この2つの目標を現実のものにすることによって初めて、国際社会という私たちの家族はより強く、より健全で、より公正かつ豊かなものとなりうる。

A handwritten signature in black ink, which appears to read "K. Annan". The signature is fluid and cursive.

コフィ・A・アナン
国際連合事務総長